

# 戦後生まれ 被爆語り継ぐ

「梶本さんは爆心地から2・3キロ離れた工場で作業中に被爆しました」。戦後70年の被爆地・広島。梶本淑子さん（84）＝広島市＝の被爆体験を語り継ぐのは、戦後生まれの大田孝由さん（68）＝奈良県生駒市＝だ。

年々減少する被爆者の証言を後世に残そうと広島市が2012年に始めた「被爆体験伝承者養成事業」。3年をかけて被爆者の体験を受け継いだ1期生50人が、ことし4月から広島平和記念資料館などで語り部活動を始めた。小学校教諭を定年退職後、「幼少期を過ごした広島のため

## 広島市の伝承者養成事業

### 1期生50人活動開始

めに何かできないか」と考えていたとき、目に留まったのが伝承者養成事業だった。梶本さんを交えた月1度の交流会には新幹線を使い、奈良から広島まで約3時間かけて通った。

梶本さんは軍需工場で作業中に被爆。右腕にガラス片が刺さり、出血しながらも重傷の友人を助け出した。

一人の被爆者の体験と必死で向き合った3年。「自分は戦争も原爆も知らない。梶本さんの気持ちを本当に理解できるのか、悩んだ時期もあった」と大田さん。語り部としてデビューした今、「『命を

大切に』という梶本さんの思いが伝わるよう心掛けたい」と自身の役割を受け止める。梶本さんは「被爆者の高齢化が進む中、大田さんら熱心な伝承者のおかげで、私たちの願いや思いも次世代に伝わっている」と話す。3期生には娘の中村裕美さん（55）＝広島市＝も参加。被爆2世として母親の被爆体験を学んでいる。

（西島宏美）

2015  
ヒロシマ  
ナガサキ



被爆者の梶本淑子さん（中央）と言葉を交わす伝承者の大田孝由さん（右）。左は梶本さんの娘の中村裕美さん＝広島市